

## 第4章 よりよい幼児教育推進のために <調査項目・要約>

### 第1節 園の教育上・経営上の課題 ……P78-84

- ・ 【課題】 国公立ともトップは、「教員の質の維持・向上」である
- ・ 【国公立：課題】 上位は「教員の質の維持・向上」「幼稚園教育の重要性の周知」「教員の確保」
- ・ 【私立：課題】 上位は「教員の質の維持・向上」「新たな園児の獲得」「予算の確保」
- ・ 【国公立：課題】 「非常勤講師の増加による、研修実施の困難さや質の差を実感する」
- ・ 【私立：課題】 「少子化や保育所志向の高まりによる園児数減が大きな課題である」

### 第2節 よりよい幼児教育推進のために ……P85-88

- ・ 【国公立の自由記述から】 「行政上の配慮や、保護者・地域への幼児教育の啓発が必要」である
- ・ 【私立の自由記述から】 「教員の質の向上、待遇の改善が必要」である

## 【課題】国公立ともにトップは、「教員の質の維持・向上」である

### ■教育上・経営上の課題

貴園の教育・経営上の課題についておたずねします。次の項目のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

<「とてもあてはまる」の数値が高い順>

※全20項目中、上位5項目のみ  
※( )内は「とてもあてはまる」の%

	国公立	私立
1位	教員の質の維持、向上(39.9%)	教員の質の維持、向上(36.9%)
2位	幼稚園教育の重要性の周知(36.2%)	新たな園児の獲得(36.6%)
3位	教員の確保(33.9%)	予算の確保(35.9%)
4位	特別支援児の対応(33.2%)	幼稚園教育の重要性の周知(31.6%)
5位	施設・設備の充実(31.4%)	施設・設備の充実(30.8%)

<「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の数値が高い順>

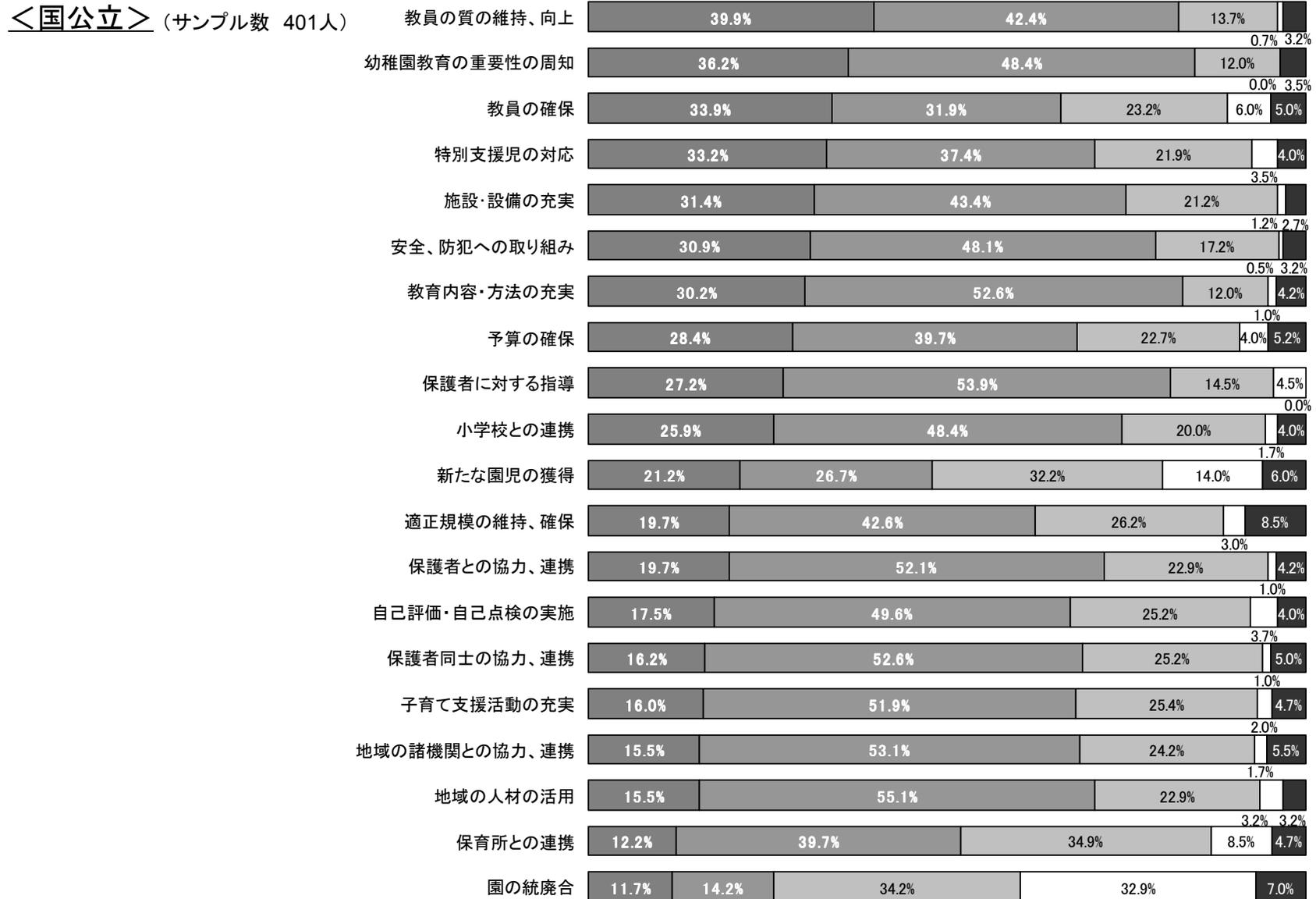
※全20項目中、上位5項目のみ  
※( )内は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%

	国公立	私立
1位	幼稚園教育の重要性の周知(84.4%)	教員の質の維持、向上(83.9%)
2位	教育内容・方法の充実(82.7%)	教育内容・方法の充実(80.6%)
3位	教員の質の維持、向上(82.2%)	予算の確保(79.2%)
4位	保護者に対する指導(80.9%)	幼稚園教育の重要性の周知(77.9%)
5位	安全、防犯への取り組み(79.0%)	施設・設備の充実(76.7%)

【国公立:課題】上位は「教員の質の維持・向上」「幼稚園教育重要性の周知」「教員の確保」

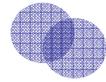


※「とてもあてはまる」の数値が高い順



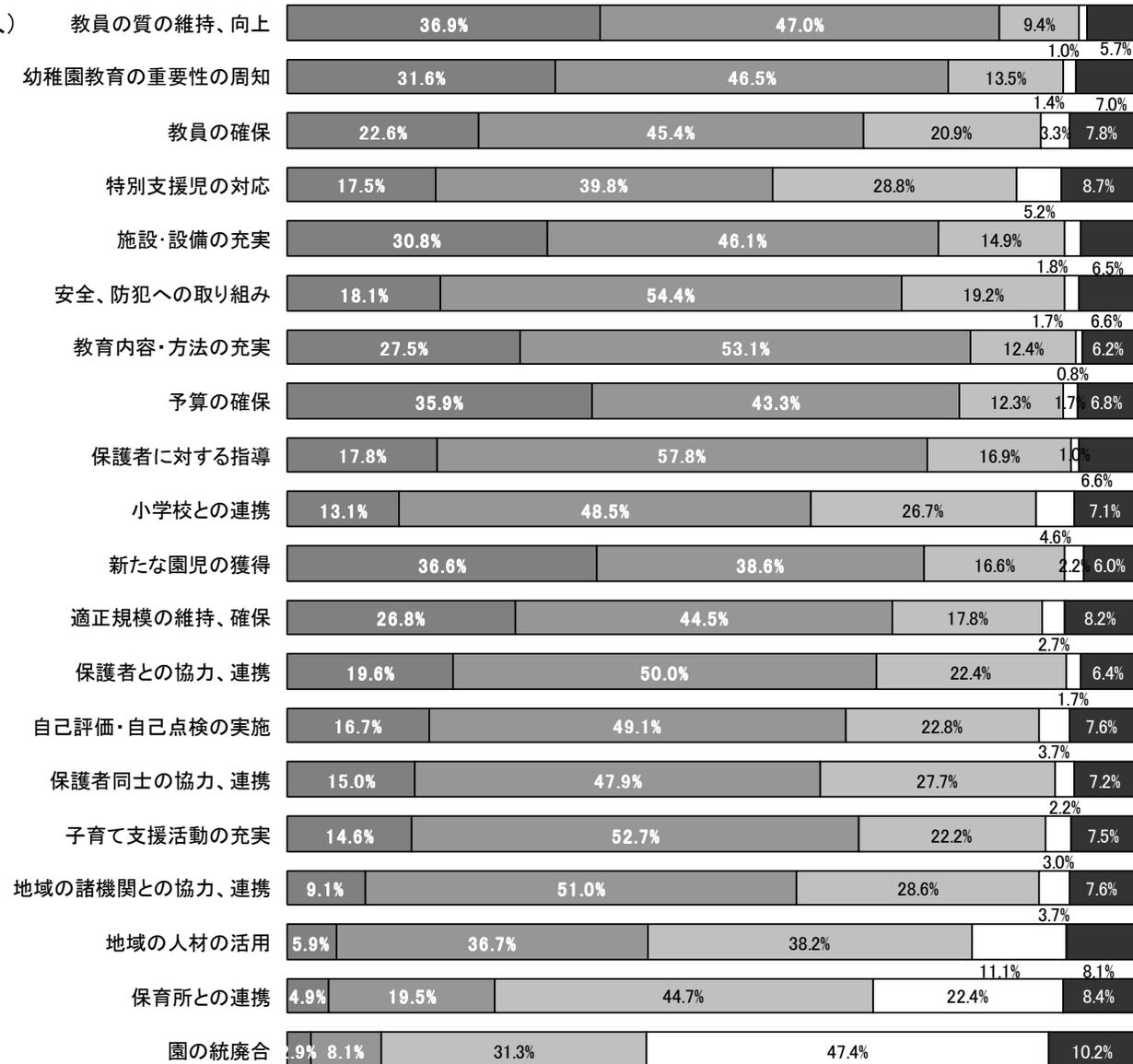
とてもあてはまる
  まああてはまる
  あまりあてはまらない
  まったくあてはまらない
  無答不明

【私立:課題】上位は「教員の質の維持・向上」「新たな園児の獲得」「予算の確保」



※項目は国公立のグラフの順にそろえている

<私立> (サンプル数 1203人)



■とてもあてはまる ■まああてはまる □あまりあてはまらない □まったくあてはまらない ■無答不明

## 【国公立:課題】 非常勤講師の増加による、研修実施の困難さ・質の差を実感している

もっとも大きな課題だと思うものについて、その番号を□内に記入してください。また、その課題の背景や要因をどのようにお考えでしょうか。

### <国公立>

※自由記述から一部抜粋したものである。できる限り、原文を重視したが、一部、文意を損ねない程度に、表現などを修正している。  
※記入率は、67.6%(国公立)である。

#### ●「教員の質の維持・向上」について

- ・研修の持ち方(時間の確保)が難しい。延長保育を実施していて、職員全員が揃うことができない。
- ・幼保一体化施設として、職員の勤務体制が複雑化し、なかなか研修時間をとれない。
- ・若手教員と今年度定年退職となる教員の二極化の構成である。日々、成長していく子どもたちに指導が不十分のところが、質を向上させるべく、研修を積んでいるところである。
- ・非常勤講師と正規職員の保育の質・保育に対する考え方等の差が大きく、質の維持・向上が難しい。
- ・学級担任に臨時講師が配属されてきているため、園内の研修が進まず教員の資質の向上が難しい。
- ・市教委や保護者から一人一人に合わせた保育や保育の充実が求められている。しかし、職員の経験年数が浅く、臨時の職員も多いため実現が難しい。又、保護者対応や特別支援を必要とする子の増加などのため、指導力とともに、カウンセリング、障がい児理解など様々な能力を身につけることが求められている。
- ・何をしてもまず教員の力量だと思います。いろいろな意味で働きやすい環境、学べる環境づくりを、社会的にも、それぞれの自治体や園経営者も考えていかなければと思います。
- ・教育の質が向上すれば、保育の充実、保護者との連携などに効果がみられると思います。
- ・教員になる勉強はしているが、日常生活の経験、体験が少ないのでは。あまり便利な物が多いので、自分で工夫しての教材や計画が乏しいので、園児や保護者の相談にも物れないのでは...と思います。又教員の待遇も私学は恵まれていないのでこの面も改善する所がありますね。

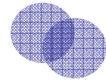
## ●「幼稚園教育の重要性の周知」について

- ・「幼稚園」というより「幼児期の教育内容」の重要性について、「教育要領」があるにもかかわらず、各教育機関が正しく理解していないことと、幼児期にふさわしい「教育方法」がとられていない現実。選択するのは、子ども本人になく、大人にあるから。社会全般の大人の理解が必要となる。
- ・義務教育ではないため、各地方公共団体の財政状況が大きく影響してくる。公立幼も民営化の波がおしよせてきており、存続の危機が迫っている。
- ・幼児教育の重要性が叫ばれている中で、幼稚園教育で培ってきたものを業界以外の人に分かりやすく伝えていく説明責任があると思う。
- ・幼児期の教育が人間としての基礎をつくる上でとても重要だと思います。地域に広く啓発していく必要を感じます。

## ●「教員の確保」について

- ・市の財政の関係なのか、正規教諭の採用がない。嘱託職員で対応しているので、勤務時間や急に退職した時など補充がみつからない時もある。
- ・正規の職員4名、臨時職員1名(主に児童クラブ)※園長は小学校長兼務。この中で朝、夕の預かり保育、バス当番、児童クラブ、土曜日預かり、児童クラブ対応等を行なっている状況であり、午後の時間に担当職員(預かり保育、児童クラブ)に専門職員配置を願う所であるが、予算的にも難しい。
- ・2クラス30名定員のところ60名満杯の状況の中、園長の他に副園長、主任のいずれの配置がない。支援を必要とする園児も増え、園長として、1人何役もこなさなくてはならず、多忙すぎる。せめて、園長の下に、パイプ役としての副園長と主任のいずれかは、絶対に必要である。
- ・民営化や保幼一元化などを視野に正規職員の採用がおさえられている現状がある。保育の質を保つために職員の確保が大事。
- ・臨時職員が多いため、充実した保育内容へ届かないことがある。保護者からも信頼される正規の職員の確保が私の園の一番の悩みであり、課題です。

## 【私立：課題】 少子化や保育所志向の高まりによる園児数減が大きな課題である



### <私立>

※自由記述から一部抜粋したものである。できる限り、原文を重視したが、一部、文意を損ねない程度に、表現などを修正している。  
※記入率は、63.3%(私立)である。

#### ●「教員の質の維持・向上」について

- ・人が人を育てるので、教員の質の向上、指導力の向上が特に重要であるが、幼稚園は教員に余裕がないので、研修の機会を確保することが難しい。自園で研究保育を実施しているが、園児がいるので、全員が参加することができず、どのようにして指導力を向上させるかが大きな課題である。
- ・私立幼稚園の場合、異動がなく、その園のやり方、園風になじんだ教員が、教育の伝達にあたり、よい伝統ができていく反面、変革や新しいものを受け入れる資質や姿勢が育ちにくい状況になりやすいので、その点に関して常に強く課題意識をもたなければならないと考えます。
- ・一度採用すると公立のように異動はできず、質の向上をはかるためには大変である。子供とほとんど取り組んでいるため、研修する時間の確保がない。
- ・教員の指導力を考えると、このままでは...と、思うことが多い。保護者に対する、援助力(指導力)が無い。又、クラスの担任になるには、2年間の学校の勉強だけでは、不足だと思います。
- ・今いろいろな点で情報過多すぎて、保護者が不安である。しっかりした考えを持ち、保護者に伝えることができる、保育者の質や向上を支えていく事が重要だと思う。
- ・多様化する親の考えや意識に、教師が対応することがなかなか難しくなっている。教師の(特に新規採用者)夢と現実のギャップ、コミュニケーション力の不足など、一人前の幼稚園教員に育つ前に希望をなくし挫折をしてしまう。
- ・養成校において教員が未熟なまま現場に出てくるケースが多い。養成校における保育者の養成カリキュラムの充実と改善を望みたい。

## ●「新たな園児の獲得」について

- ・私立の場合、園児数の減少が直接教職員の待遇にひびきます。子育て支援事業等もあり、仕事が厳しくなる一方です。
- ・地域の子どもが少なくなっているため、園児確保が難しくなっている。園としては未就園児のクラスや、預かり保育を開設するなど、時代のニーズにこたえ今後も柔軟に対応していきたい。
- ・保育所志向の強い地域で、預かり保育を充実しても、流れてしまい、保育所と幼稚園の違いがあまり認識されていない。
- ・少子化や女性の社会進出に伴う保育所志向により、園児減少が続いている。国が教育を重要視するのなら、子どもがいての幼児教育であるし、又、幼児教育を永続的に進めていくため、又、園児減少に影響されないため園経営に対し、財政的支援を拡充して欲しい。
- ・園児の確保がすべての基盤。これなしに経営の安定も、教育内容の充実も期待できない。

## ●「予算(補助金、保育料など)の確保」について

- ・少子化で園児数が減ってしまって理想とする予算が組めない。園舎は老朽化し、給料も上がらない。このままでは幼児教育の質が低下してしまう。
- ・国公立の幼・保園と私立の幼・保園では補助金に大きな格差がある。従って施設・設備の面はもちろん多方面にわたって充実をした保育内容とは成りがたい。
- ・幼児教育の必要性を考えた時、教職員の地位向上や待遇改善、施設設備や遊具の充実等、課題は大きい。もっと乳幼児期に財政援助をして欲しいと強く思います。
- ・他園との競争により、保育料を大幅に上げる事がむずかしいので補助金によって収入を補っていただければと思います。教員の給与の水準を上げていく事が、いい人材を確保する手段だと思います。
- ・当園は、宗教法人のため、補助金が、殆んどゼロ状態である。従って施設・設備が、極めて劣悪であり、毎日、楽しくやっている子どもたちが可哀想である。

## 【よりよい幼児教育のために】 行政上の配慮や、保護者・地域への幼児教育の啓発が必要である

貴園の課題に限らず、今後よりよい幼児教育を推進するために必要だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

※自由記述から一部抜粋したものである。できる限り、原文を重視したが、一部、文意を損ねない程度に、表現などを修正している。  
※記入率は、47.1% (国公立) である。

### <国公立>

#### ●行政への要望

- ・行政側の幼児教育に対する理解を図ることが必要である。教育に対して、お金をかけなさすぎる。大切さを説いていながら具体的な施策が乏しい。早期の幼児教育センターの設置を求めたい。
- ・特別支援教育の推進による障がい児の受け入れ、子育て支援などに対し、人的配置を含む教育予算の拡充が必要と考える。
- ・幼児教育にたずさわる教諭の資質向上のための研究・研修の充実とこれからの幼児教育を考えると幼稚園教諭と保育士の両方の資格を所有することが求められると思うので、そのための法的措置が必要と考える。
- ・社会情勢等で幼児教育をとりまく状況が大きく変化している。おちついた環境で見通しをもった保育を行うために、今後の幼児教育に関する行政の考え(ビジョン)をしっかりとたなければならないと考える。
- ・学級編制の定数の引き下げ。特別支援にかかわる教員配置のための人的、予算的な確保。
- ・ゆとりをもって丁寧な保育をしていけるような行政側の配慮は不可欠。
- ・文科省、厚労省というように、小学校入学前の子を保護者の就労等で分けるのではなく、同じ年齢の子を同じように、保育、教育できるよう省庁が1つになり、地域の子を同じようにできることを願っています。
- ・義務教育、まずは小学校教育とつなげる、いわゆる教科学習ということだけでなく、幼児期にふさわしい遊びを通して、集団生活を通して、基盤を育てる。これまでの幼稚園教育を見直すことも必要。確かな育ち、確かな援助と指導を保障する。

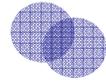
## ●保護者や地域などへの啓発

- ・幼児期に大切にしたいことをしっかりと伝えること。メディア等にふりまわされ「お勉強だ」「早期教育だ」はかえって幼児の興味や意欲を奪っていると感じることさえある。親が思う大切さではなく、良い青少年に育つために必要なことを知らせる必要がある。
- ・園の教育を理解してもらうために、参観週間をたちあげたが、外部へ公開していく重要性を感じます。子どもの成長の姿をみせていながら、「親育て」に工夫が必要である。
- ・手間ひまかけて子育てをすることの大切さ、子育ては大変なこともあるけれど、楽しいものも多く、親自身も子育ての中で得られることが沢山あることを若い親に伝えていかなければならないと思う。楽しんで、きれいに(手足を汚したくない人多い)ばかりでは子どものためにならないことを知ってほしい。
- ・地域のネットワークを生かして、地域が子どもにかかわる体制づくりを考えていけたらよいと思う。地域の人材活用を積極的に行っていくことを考え、園をもっと地域に開いていくべきだと思う。
- ・母親に限らず家族のもの(父親でも、祖母でも)が子育てにかかわる事は、社会的な仕事をしている人たちと、同じく、大切なことであることを周知する。
- ・親が変わらなければ、子どもは変わりません。親自身が自覚をもち、子どもを理解してよりよい子育てができるように、幼稚園が指導していく必要があると思います。

## ●その他

- ・公立幼稚園の立場から述べます。保護者(母親)の就労の増加や、子育て観の変化により、保育時間の長さやバス通園を望む傾向が強まり、公立幼稚園の園児数は減少の一途です。居住する地域に存在することから、帰宅後も、子ども同士、保護者同士の交流が可能であること。毎日保護者が送迎することから、保護者と担任が毎日顔を合わせ、連携が密であることなど、公立幼稚園の存在価値は大きいと考えます。公立幼稚園の存続こそが幼児教育の更なる推進のために必要不可欠と考えます。
- ・家庭教育を基盤として、よりよい幼児教育ができるよう、子育て、親育てをしていくことが今まで以上に求められています。また、母親が孤立しないよう、父親の育児参加も場をとらえて啓発する必要があります。

## 【よりよい幼児教育のために】 教員の質の向上、待遇の改善が必要である



### <私立>

※自由記述から一部抜粋したものである。できる限り、原文を重視したが、一部、文意を損ねない程度に、表現などを修正している。  
※記入率は、48.2%(私立)である。

#### ●行政への要望

- ・現規程では、1クラスは35人となっているが、多くて24、5人が子どもにとっても保育担当者にとってもベターであると思うので、県、市町村レベルではなく、文科省レベルで、一考を願いたいと思っている。
- ・小学校就学前について、担当部署の一元化が必要。さらに、保育料なども児童手当などを含めて考える視点がほしい。育児休業や勤務時間など子どもに関わるトータルな見直しが重要と考えます。幼稚園という枠の問題では既になくと思います。
- ・園児減少の中、経営の困難さが危惧される中、更に補助金の減額が実施され、経営は困難を極めている。理想とする保育を実施しようにも、内容を縮小したり、妥協を強いられる事は非常に残念である。工夫と節約でどうにかねらいを達成する努力を重ねているが、それでもなかなか難しい面がある。一方、保育園には多大な補助金が支給されていることは、同じ国の宝で平等であるはずの子どもに対して、非常に不公平である。
- ・親の都合がニーズと呼ばれ、そのニーズに合わせて行き過ぎる感もある保育行政とあるべき子育てを調整して行くことが難しいことだが、大切なことと思う。次から次へと生まれるニーズ、親のニーズに合わせていくことより、育児期間の給料などを補助などし、一定期間は家に親が居られるようにした方が良いと思うが。

#### ●教員の質の向上、待遇改善の必要性

- ・幼稚園教諭の待遇の改善が急務。天職として永く勤められるような体制ができていない。
- ・国をあげて幼児教育の大切さを説いてますが、その反面、私立幼稚園の経営の苦しさをもっと理解して欲しいと思います。通常保育、預かり、子育て支援、と教職員の負担はかなり大きいのに待遇面では非常に低いのです。何とかして欲しいです。まず職員の身分の保証をしてほしい。私学は、それぞれの経営者の考えにより、給料等大変な格差がある。補助金の使途をもっともっと明確にし、給与を一律にしてほしい。公務員並にもって行ってほしいです。
- ・子どもを取り巻く環境は、大きく変化し、忙しく働く大人たちの間で流されがちです。時代がどんなに変わっても、子どもの感動する心は変わりません。どんな時も子ども一人ひとりとしっかり向き合い、受けとめ、豊かな成長を目指せる教員の質を維持し、向上していくことが課題と思います。

## ●第三者機関との連携の必要性

・現場の教師が、保護者の対応や、子育て支援といった、課題に押しつぶされることのない様に！特に母親達へのマスコミの情報があふれていて、知識ばかりが先行して、要求が大きくなりすぎていると思う。本当に必要なことは何か、教師と保護者が互いに信頼しあい、より良い子育てができるように、第三者機関も交えて、連携していく方法を考えてもらいたい。

・公立私立関係なく無償で子育て相談ができる機関や連携をとりすすめていくことができるようになってほしい。

## ●子育て支援について

・長時間、子どもを預けることがよい、必要だ、という論調の考えには違和感をおぼえる。それが、本当に、子どもの未来のためになるのだろうか？それより、家族が安心して、子育てできるような社会環境をつくる方が大事なのではないだろうか。長時間労働をなくす、ワークシェア制度、育休制度、子育て中の家族に対する、さまざまな援助が必要と思う。

・親支援が必要だと思います。情報が多すぎる現代社会で、本当に良い情報をキャッチして利用する、役立てるということは若いお母さんやお父さんにとって大変難しいことだと感じます。情報を選び取るには子育てやその他、経験から学習した知識が必要だからです。経験の少ない若い親が無駄に不安を抱いたり、間違っただけの思い込みをせずに自分の子どもを理解し、なおかつ社会の一員であることを意識して子育てができるような、多方面から見た親支援が必要だと感じています。

## ●その他

・特別支援教育が必要であり又、入園希望が多い。さまざまな障がいのある子が、健常児との生活をもとめているので、施設面、補助教諭への補助の充実をして欲しい。制度と予算を一緒にして欲しい。

・やはり、自己評価、他者評価を受けて、保育の在り方を根本から見直す機会を設けていく必要がある。また、教職員の異動がないので資質の向上・研修面の充実をどう図っていくかが問題である。内部でのなれあいの保育研究に流れ易いこともある。子どもが幼い時期なので親の子育てに対する関心も比較的高い。この関心の高さを園での保育に何等かの形で生かしていけたらと考えている。